

都 退 教 協 だ よ り

No.303号

2021年10月27日発行

東京都退職教職員協議会 会長 谷口 滋

〒101-0003 千代田区一ツ橋 2-6-2 日本教育会館 2F 東京教組内

☎:03-5276-1311 FAX:03-5276-1312 Mail:totaikyokyo@tokyokyouso.org

選挙に行こう！国民審査をしよう！ 政権交代か、安部・菅・自公政権の継続か

10月31日(日)は、衆議院選挙と最高裁判所裁判官の国民審査の日です。

今回の総選挙は、9年間君臨した安倍・菅・岸田自公政権が継続するか、野党連合による政権交代を実現するかが問われる選挙です。私たちのいのちとくらしを守るために大切な一票を行使しましょう。

投票は、①小選挙区選挙 ②比例代表選挙 ③最高裁判所裁判官国民審査の3種類です。

小選挙区は立候補者名を、比例代表は政党名を投票します。

比例代表は、北関東（茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県）・南関東（千葉県、神奈川県、山梨県）・東京都のブロックごとに政党の得票数に応じた数の名簿掲載者が当選になります。



衆議院選挙は、9年前の自公政権から60%以下の低投票率が続いています。ぜひ投票に行って、民意を反映した選挙にしましょう。

最高裁裁判官国民審査はリコール投票

国民が最高裁裁判官をリコールできるのが国民審査です。裁判官ごとに、やめさせた方がよいと思う裁判官については「×」印を記載し、やめさせなくてよいと思う裁判官については、何も記載せずに投票します。

今回は、15人の最高裁裁判官の内11人が審査の対象になります。リコールするかどうかは、裁判でどのような判断や意見を示したかによります。今回は、衆議院選挙の争点でもある夫婦同姓制度の問題と前回の参議院選挙の一票の格差についてが主な判断材料になります。

夫婦同姓制度は合憲だとした裁判官は、深山卓也、岡村和美、長嶺安政、林道晴。

参議院選挙の一票の格差を合憲とした裁判官は、深山卓也、岡村和美、林道晴。

「NHK 国民審査」で検索すると詳しい情報が分かります。

都退教協 第47回定期総会 メッセージ

東京都退職教職員協議会 第47回定期総会の開催、おめでとうございます。

日頃から東京教組の運動へのご支援・ご協力に心から感謝申し上げます。

また、都退教協の皆さんの平和・人権・民主主義を求める活動に、心から敬意を表します。

新型コロナウイルス感染症対策として安倍前首相が休校を要請してから1年以上が経過しましたが、オリンピックの開催を優先し、後手後手の対応に終始した政権によって、COVID-19が収束する道筋は全く見えてきません。自治体任せのワクチン接種でなかなか予約が取れず、不安にかられた高齢者の方々もたくさんいたと聞いています。

毎日の消毒作業、オンライン授業や、GIGAスクールの準備作業に追われ、教員の心身の疲れは蓄積されています。出退勤の打刻や留守番電話、スクールサポートスタッフや部活指導員の配置などが少しずつ進み、定時退勤も推奨されています。35人学級も決まりましたが、業務の削減が進まないため、長時間労働の是正はまだまだ実現できていません。

国会では、長年の課題であった公務員の定年引上げが6月4日に決定しました。

しかしこのような過酷な勤務状況の中では、手放しで喜ぶことはできません。定年が延長されても、そんなに長く働けるのか、不安の方が大きいのではないのでしょうか。

また、COVID-19感染や熱中症の危険もある中、オリパラの「学校連携観戦」が、大きな問題になっています。オリンピックパラリンピックは中止すべきだという世論が大きくなっている中、組織委員会が出したキャンセルに関する文書を、都教委は地教委におろしていないことがわかりました。観戦する人数を1万人以内に制限するという話も出てきましたが、子どもや関係者の人数は1万人とは別枠だということです。そんな中、参加の取り

止めを決定する自治体が次々に出てきていますが、まだ観戦を諦めていない自治体もあります。人命よりも、忖度や同調圧力が働いて、キャンセルできなかったとしたら、そこで誰かの命が危険に曝されるとしたら、一体誰が責任をとれるのでしょうか。勇気をもって観戦をやめるべきです。

安倍政権を継承する菅政権によって、生命、民主主義、人権がないがしろにされてきました。菅首相は、桜を観る会も、選挙違反に使われた1億5千万円も、日本学術会議の任命拒否問題も、何ひとつ説明責任を果たしていません。更に、COVID-19の緊急事態宣言等で職を失ったり、貧困に陥ったりした人を助けるための施策が不十分なのに、重要土地調査規制法案や、国民投票法、デジタル庁監視法案などの悪法は十分な論議もせずに次々と成立させました。立憲主義・平和主義・民主主義を破壊する憲法改悪を絶対に許してはなりません。

7月4日の都議会議員選挙では、東京教組の組織内候補 あべ祐美子さんが、皆さんの応援の力で見事当選することができました。8年ぶりの組織内都議会議員です。これからは、私たちの声をしっかり都議会に届けていただきます。

更に私たちの思いを実現するには、私たちの代表を国会に送る必要があります。来年7月の参議院議員選挙まであと1年。「教え子を再び戦場に送るな」のスローガンのもと、全国比例日政連候補予定者の古賀ちかげさんを、皆さんの力でぜひ国会に送りましょう。

平和憲法をまもり、すべての人々が支えあい、ともに生きる社会の実現をめざし、運動をすすめていきましょう。

2021年 7月 7日

東京都公立学校教職員組合

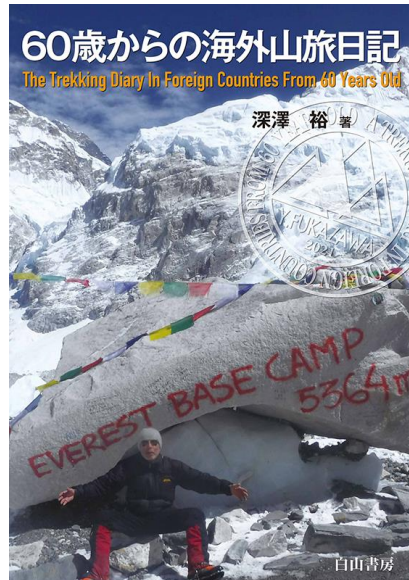
執行委員長 外山 理佳

60歳からの海外山旅日記

会員の深澤裕さんが本を出版されました。
「2014年3月31日、私は36年間の仕事を
終え、退職した。60歳で自由人となった。
再雇用で、まだまだフルに働くという選択肢
もあったが、私にとって現場で働くのにはち
よいと気力が足りなかった。もう十分燃焼し
たという気持ちが強かった。」（「あとがき」
より）

日本百名山を完登した深澤さんは、定年退
職後に海外トレッキングに挑戦。本書は、ネ
パールを始めニュージーランド、ヨーロッパ
アルプスなど名だたる13コースをルート図
と共に紹介。また、チベット訪問や若き日の
秘境ラダック紀行を読むと一緒に旅した気分

に浸れる。トレイルに役立つ行程表や歩行時
間、物価も記載され
ている。都退教協だ
よりも掲載した
「カトマンズ・ロッ
クダウン日記」も所
収している。



税込2,000円（B5
版164頁フルカラ
ー）購入申し込みは
白山書房 FAX042-
669-4721。ネットで
も購入できます。

国連・人権勧告の実現を！

～なぜこんなに冷酷なことができるのか？ 外国人の人権からみた日本～

2021年3月6日、スリランカ出身のウィシ
ュマ・サンダマリさんが名古屋入管の収容施
設で亡くなりました。ウィシユマさんがDV被害
や体調悪化を訴えていたにもかかわらず、
適切な救済措置を講じず収容施設に閉じ込め
続け、結果的にウィシユマさんの命を奪った
あげく、現在も監視カメラ映像の全面開示を拒んでい
る入管行政。外国人を単なる使い捨ての労働力とみな
し、人間として尊重しないその姿勢
は、日本が他国を植民地支配し、侵略戦争を行って
いた時代と地続きのものといえます。

こうした入管体制問題の根本はどこにあ
り、国際人権基準といかにかけ離れているの
か。コロナ禍の中でさらに露呈した、国際人権
基準に背いて外国人の人権を侵害し続ける日
本政府の問題を、世界人権デー（12/10）を記
念して考えたいと思います。

●日時 12月10日（金）14:00

●基調講演 指宿昭一さん（弁護士）

—使い捨て外国人

人権なき移民国家 日本—

課題別報告

① 鈴木雅子さん（弁護士）

「国際人権基準からみた入管法改悪問題（仮）」

② パク・キム・ウギさん

（在日本朝鮮人人権協会）

「国際人権基準からみた朝鮮学校差別問題」

● 会場 参議院議員会館講堂（予定）

● 資料代 500円

安田菜津紀さん講演会！

人権の21世紀をつくる文化の集い2021

21世紀の幕開けとともに開催した「人権の21世紀をつくる文化の集い」は、フォトジャーナリストの安田菜津紀さんをお招きし、ジャーナリズムと人権をテーマに写真を観ながら国内外の人権課題について話していただきます。日曜日のTBSの「サンデーモーニング」にも出演しているのでご存知の方も多と思います。

安田さんは、東南アジア、中東、アフリカ、日本国内で難民や貧困、災害を取材。東日本大震災以降は陸前高田市を中心に被災地を記録し続けています。また、最近ウイシュマさんの家族も取材しています。

安田さんは、「写真は知りたと思う扉を開く存在」と、映像や写真で分断、差別、搾取に抗し続けています。また、自らのルーツを探る旅にもとりくみ、「ルーツを隠さねばならない社会は豊かとはいえない」と発信しています。

コロナウィルスのパンデミックは、2年目を迎えて再び猛威を振り、ワクチン接種の貧困国との格差も広がり、難民などの弱者を直撃しています。また、新型コロナ感染による、アジア人差別やワクチン未接種差別も引き起こ

しています。

人間が引き起こす差別や偏見を乗り越える英知が人間にはあると信じ、安田菜津紀さんと一緒に差別を許さない人権ジャーナリズムについて考えていきたいと思っています。



人権の21世紀をつくる文化の集い2021

ジャーナリズムと人権

おはなし **安田 菜津紀** さん
フォトジャーナリスト

11月26日(金) 18:00開場
18:30開演

きゅりあん 小ホール JR大井町東口駅前・きゅりあん1階
全席自由/1000円 手話通訳あり

主催 「人権の21世紀をつくる文化の集い」実行委員会 TEL 03-3762-7176 後援 大田区、品川区、港区、目黒区



日 時

11月26日(金)

18時開場 18時30分開演

場 所

きゅりあん小ホール

(JR大井町東口駅前・きゅりあん1階)

※全席自由/1000円 手話通訳あり

さいたま地裁が異例の判決 教員の働かせ放題に歯止めを！

教員に残業代が支払われないのは違法と、埼玉県に未払い賃金として約240万円を求めた裁判で、10月1日さいたま地裁（石垣裁判長）は請求を棄却した。一方、石垣裁判長は判決で、4%を一律で支給する教職員給与特措法（給特法）に言及し「原告の勤務実態を見ると、多くの教育職員が学校長の職務命令などから一定の時間外勤務に従事せざるを得ない状況にあり、もはや教育現場の実情に適合していないのではないかとの思いを抱かざるを得ない」と指摘。「現場の教育職員の意見に真摯に耳を傾け、勤務時間の管理システムの整備や給特法を含めた給与体系の見直しなどを早急に進め、教育現場の勤務環境の改善が図られることを切に望む」と教員の働かせ放題の現状を改善するよう付言した。請求が棄却された不当な判決のため原告は控訴したが、付言については教員の働かせ放題の現状に歯止めをかける期待が寄せられている。

神奈川県の公立小教諭は、判決が、現行の給与や働き方を巡る制度について「もはや教育現場の実情に適合していない」と指摘したことについて「とてもありがたい。今後、制度の

見直しにつながってくれば」「給特法を変えて、教員のやりがい搾取に歯止めをかけてもらいたい。それまでは残業しないという方法でたたかい続けたい」と話す。

教員の業務が際限なく増えてきたのは、行政や管理職にとって残業代を出さずに済むことも一因だ。勤務時間管理もせず、人も手当ても増やさず、仕事だけは増やしてきたのが実態だ。教員の長時間労働が社会問題化したことで、教職希望は激減、人手不足は深刻である。

愛知県公立小教諭は、判決が教員の業務削減や「勤務実態に即した適正給与の支給」に早急な対応が望まれると言及したことについて、「こうした司法の声が示されたことには、大きな意義がある。立法府や行政は真摯に受け止めてほしい」「教員は子どものために滅私奉公するのが当然だ、と周囲も教員自身も思いがちだが、労働者としての権利や人権がもっと重んじられるべきだ」と指摘。定時出勤、定時退勤をして、こなしきれない業務がどれだけあるかを可視化し、業務の精選につなげるなど「それぞれの職場で教員が声を上げていくことも必要だ」と話す。

秋の交流会

紅葉の高尾山散策のお知らせ

11月15日(月) 11:00

京王線「高尾山口」集合

2年ぶりに、秋の交流会を行います。今年は、紅葉の高尾山。比較的すいている月曜日に、ゆっくり高尾山の紅葉を楽しみたいと思います。

ケーブルカーを使えば、山頂まで約1時間の行程です。健脚の方は歩いて山頂までどうぞ。全長：3.8km。昼食弁当持参でお願いいたします。



会費・カンパを振り込んでいただき、ありがとうございます。

会費を納入してくださった方々

松下和男、武藤啓司、小山都、伊達和子、清水和江、菊地純子、内藤貴子、

カンパしてくださった方々

小山都、伊達和子、内藤貴子、

・9月1日以降 10月20日現在

ひとこと

伊達和子 通信ありがとうございます。

少人数で、たいへんなお仕事かと思い、頭が下がります。

(敬称略)

編集後記

- ◇ 皆さんに会報が届くころは、衆議院選挙投票目前ではないかと思えます。アベ・スガ政治を継承する岸田政権か、くらしといのちを守る野党政権かが問われる選挙です。31日(日)までに投票を済ませましょう。
- ◇ 再分配や格差是正が総選挙の争点になっているが、女性の正規雇用者は3%も減少し、全体の平均年収も33,000円減少の433万円。非正規雇用者では176万円(男性228万円、女性153万円)。格差のしわ寄せがより弱いものに偏っていることが分かる。立憲民主党の公約である累進課税、金融所得課税、低所得者に12万円の現金支給、消費税率引き下げは喫緊の課題だ。子どもたちに「親ガチャ」と嘆かせてはならない。
- ◇ 地球温暖化による世界的な異常気象で食料生産の減少、価格の高騰が続いている。今年の日本の食料自給率は、過去最低の37%(カロリーベース)。6割以上の食料を輸入に頼っている。食料輸入相手国は米国1.6兆円、中国1.2兆円、カナダ0.5兆円の順だ。これらの国々で輸出できる穀物が生産できなくなることも考えると、食料安全保障として食料自給率を政府が目標とする45%にすることを本気で考えないと大変なことになる。(谷口記)